

科目名	基礎医学講座Ⅱ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	中山 仁 福井 綾		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・人体の構造と機能について、図や表を確認し、理解しながら覚える。 ・解剖学、生理学、運動学の授業と関連させながら対象範囲の国家試験問題を実施する。 ・授業範囲の国家試験対策ノートを作成する。 						
授業形態	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				筋の名称、位置、作用(運動)について、説明することができる。	
	○	○				神経系の機能構造について、説明することができる。	
	○	○				授業の範囲における国家試験の問題を理解し、解答について説明することができる。	
○	○					授業の範囲において国家試験対策に活用できるノートを作成することができる。	
テキスト・教材 参考図書	<ol style="list-style-type: none"> 1. あたらしい人体解剖学アトラス 佐藤達雄(訳)メディカル・サイエンス・インターナショナル社 2. 基礎運動学. 中村隆一, 齋藤宏 医歯薬出版株式会社 3. 病気が見える⑦脳・神経 第2版:メディックメディア 						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	筋系Ⅰ(全身の筋の名称)			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。		
	2	筋系Ⅱ(体幹 位置/作用(運動))			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。学習ノート①作成		
	3	筋系Ⅱ(上肢筋 位置/作用(運動))			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。学習ノート②作成		
	4	筋系Ⅱ(下肢筋 位置/作用(運動))			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。学習ノート③作成		
	5	筋系Ⅲ 国家試験過去問			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。学習ノート④作成		
	6	筋系Ⅲ 総まとめA 国家試験解説			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。学習ノート⑤作成		
	7	筋系Ⅲ 総まとめB 国家試験解説			教科書の予習をしておく。授業の範囲の復習をしておく。学習ノート⑤の続き作成		
	8	神経内科に必要な生理、病理、解剖学①			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
	9	神経内科に必要な生理、病理、解剖学②			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
	10	神経内科に必要な生理、病理、解剖学③			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
	11	脳動脈/運動路/運動の調節			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
	12	感覚路/末梢神経			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
	13	脳神経①			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
	14	脳神経②			神経内科学Ⅰの授業の復習と、神経内科学Ⅰの授業資料・国試対策ノートを持参すること。		
15	総まとめ			国家試験過去問 解説など			
評価方法	講義1~7(中山担当)→宿題・レポート:学習ノート①、②、③、④、⑤と、まとめプリント①、②、③、④、⑤ 講義8~15(福井担当)→授業内での小テスト(2回実施予定)、定期試験で成績判定を行います。						
	以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				30%
	小テスト	○	○				20%
宿題・レポート	○	○				50%	
発表・作品							
履修上の注意	* 授業内容の順番は変更及び前後する場合があります。						

科目名	作業療法評価学Ⅲ						
科目名(英)	Seminar for OT Assessment ; PracticeⅢ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	野村 和代		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院で勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	作業療法を実施するためには対象者を全人的にとらえることが重要である。しっかりと問題点を把握し、その人がその人らしく生きるためゴールを設定しその達成のためのプログラムを立案することも必要である。この講義では、そのために要する評価の目的や臨床的意義を理解し、各種の検査・測定法を実施できるようになることを目的としている。最終的には模擬症例を用いて、評価結果を統合・解釈し、プログラム立案へ結びつけることも目指している。						
授業形態	講義： △	演習： ○	実習： △	実技： △	※ 主たる形態：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				作業療法における評価の目的を理解し、説明できる。	
	○	○				作業療法評価に必要な各種の検査・測定法の臨床的意義を理解し、実施できる。	
	○	○		○		模擬症例の評価結果から問題点を抽出できる。	
	○	○		○		模擬症例に対するプログラム立案ができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)能登真一他 編 標準作業療法学・作業療法評価学 第3版 医学書院2017. 2)市川和子 編 作業療法臨床実習とケーススタディ 第2版 医学書院2011. 3)上田敏 著 ICFの理解と活用 第1版 萌文社2008 4)中里 瑠美子 著 片麻痺の作業療法 第1版 共同医学出版社2016. 5)鈴木則宏 編 神経診察クローズアップ 第2版 メジカルビュー2018. 参考文献：1)樋口貴広他 著 身体運動学 第1版 三輪書店2008. 2)田崎 嘉昭他 著 ベッドサイドの神経の診かた 第15版 南山堂2002. 3)西条 寿夫 監修 リハビリテーションのためのニューロサイエンス 第1版 メジカルビュー社2015. 4)本間 光信他 編集 リハビリテーションのための画像の読み方 第1版 メジカルビュー社2015. 5)松原真子他 著 ペインリハビリテーション 第1版 三輪書店2011.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	画像の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	2	筋緊張と反射検査				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	3	筋緊張と反射検査				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	4	小脳の機能と協調性				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	5	知覚の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	6	疼痛の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	7	上肢機能の評価				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	8	疾患別評価：脳卒中(脳神経検査/片麻痺機能検査ほか)				内容に関する基礎知識の復習と、講義資料の整理。 配布文献の精読。	
	9	疾患別評価：脳卒中				疾患別評価の当該疾患に関する復習。	
	10	疾患別評価：脊髄損傷				疾患別評価の当該疾患に関する復習。	
	11	疾患別評価：関節リウマチ /パーキンソン病 その他				疾患別評価の当該疾患に関する復習。	
	12	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ：模擬症例における評価手段選択と問題点抽出)				『臨床実習とケーススタディ』の指示した箇所を精読し、ケーススタディの予習をしておく。	
	13	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ：模擬症例におけるゴール設定・OTプログラム立案)				ケーススタディのグループワーク担当箇所を調べてまとめておく。	
	14	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ：まとめ)				ケーススタディのグループワーク担当箇所を調べてまとめておく。	
15	評価結果の統合と解釈(ケーススタディ：発表とレポート提出)				発表の準備。試験に向けての学習。		
評価方法	(1)ケーススタディの発表とレポートを1回提出する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト						
	レポート・発表	◎	◎		◎		20%
履修上の注意	実技時の服装は、学則及び臨床実習時の心得に順ずる。						

科目名	身体障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction Ⅱ						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院で作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部3年						
授業概要	この授業は、実際作業療法を行う上で何がクライアントにとって必要なことかを考える授業である。そのためには基礎医学、臨床医学、作業療法理論、基礎作業学実習、作業療法評価学を統合する必要がある。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎				作業療法の対象となる代表的な疾患について説明できる	
	◎	◎				作業療法の具体的な介入方法を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	参考図書はその都度紹介する						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	【各論】頭部外傷(疫学、分類、症状) 【各論】頭部外傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	2	【各論】脊髄損傷(疫学、分類) 【各論】脊髄損傷(症状)					
	3	【各論】脊髄損傷(作業療法) 【各論】脊髄損傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	4	【各論】パーキンソン病(疫学、分類) 【各論】パーキンソン病(症状)					
	5	【各論】パーキンソン病(作業療法) 【各論】パーキンソン病(作業療法)				課題プリントの作成	
	6	【各論】筋萎縮性側索硬化症 【各論】脊髄小脳変性症				課題プリントの作成	
	7	【各論】ギランバレー症候群 【各論】多発性硬化症				課題プリントの作成	
	8	【各論】関節リウマチ(疫学、分類) 【各論】関節リウマチ(症状)					
	9	【各論】関節リウマチ(作業療法) 【各論】関節リウマチ(作業療法)				課題プリントの作成	
	10	【各論】末梢神経損傷(疫学、分類) 【各論】末梢神経損傷(症状)					
	11	【各論】末梢神経損傷(作業療法) 【各論】末梢神経損傷(作業療法)				課題プリントの作成	
	12	【各論】骨折(疫学、分類) 【各論】骨折(症状)					
	13	【各論】骨折(作業療法) 【各論】骨折(作業療法)				課題プリントの作成	
	14	【各論】内部障害(呼吸器疾患)				課題プリントの作成	
15	【各論】内部障害(糖尿病) 後期の振り返り				課題プリントの作成		
評価方法	(1)課題プリントの提出をする。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				70%
	課題プリント	◎	◎				30%
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学Ⅱ									
科目名(英)	Occupational Therapy for Developmental DisordersⅡ									
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	小野 仁					
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	病院・児童福祉施設で作業療法士として勤務					
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年									
授業概要	1. 人間発達学で学んだ知識と発達障害作業療法学で学んだこと、そして実際の介護体験実習で学んだことを整理する。 2. 発達障害分野の各疾患について学ぶ。 3. 発達障害分野の各疾患に対する作業療法の知識を学ぶ。 4. 対象児者や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりについて学ぶ。 5. 介護体験実習Ⅱで、こどもたちの特徴を考え、こどもたちが楽しめる遊びや活動を提供する。									
授業形態	講義:	○	演習:	△	実習:	△	実技:	△	※ 主たる形態:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。				
	○	○				代表的障害(知的障害、筋ジス、ダウン症、二分脊椎等)について臨床像を説明することができる。				
	○	○				上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。				
	○	○		○		特別支援学級での介護体験実習に参加し、児童・生徒と安全に配慮しながら、遊びや活動等を提供できる。				
テキスト・教材 参考図書	教科書:作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第3版、メディカルビュー、2021 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]第3版、三輪書店、2019 上杉雅之監修、辛島千恵子編集、イラストでわかる発達障害の作業療法、2106 その他									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	介護体験実習の振り返り(グループワーク)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をするようにしてください。				
	2	介護体験実習の振り返り(まとめ)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をするようにしてください。				
	3	知的障害に対する作業療法(知的障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	4	知的障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	5	摂食嚥下障害に対する作業療法(嚥下障害とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	6	摂食嚥下障害に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	7	筋ジストロフィーに対する作業療法(筋ジストロフィーとは・評価)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	8	筋ジストロフィーに対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	9	ダウン症に対する作業療法(ダウン症とは・評価)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	10	ダウン症に対する作業療法(アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	11	二分脊椎に対する作業療法(二分脊椎とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	12	分娩麻痺に対する作業療法(分娩麻痺とは・評価・アプローチの実際)				復習をしておくこと、必要時にTeamsで課題等も配信します				
	13	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をして、みんなでこどもたちの活動を考えて下さい				
	14	介護体験実習Ⅱ(グループワーク)				グループ内でしっかりコミュニケーションを取り、連携をして、みんなでこどもたちの活動を考えて下さい				
15	まとめ				グループ全員が参加してレポートを作成するようにしてください。					
評価方法	(1)レポートを実施します。(2)定期試験(筆記)を実施します。 以上を下記の観点・割合で評価します。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とします。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○	○				80%			
	レポート	○	○		○		20%			
履修上の注意	特別支援学級での2回の介護体験実習を12月ごろに実施する。日程は調整の上、告知します。 その他、必要なものについては授業の中で提示をします。									

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	OT for Psychological Disorder Ⅱ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	脇元 啓行		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	①疾患の障害特性と作業療法の実際を理解する ②精神障害作業療法の基本的な実践を理解する ③精神障害作業療法の評価と計画を実施できる						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				疾患の障害特性と作業療法の実際を説明できる。	
	○	○		○		評価を行い、情報の整理することができる。	
	○	○		○		事例演習を通して作業療法計画の立案を体験する。	
テキスト・教材 参考図書	①香山明美他編:生活を支援する精神障害作業療法-急性期から地域実践まで.医歯薬出版 ②オリジナル資料 参考文献:1)富岡詔子他編集 日本作業療法協会監修:作業治療学2 精神障害(作業療法学全書).協同医書出版社 2)石井良和他編:精神障害領域の作業療法.中央法規 3)松井紀和編著:精神科作業療法の手引き.牧野出版 4)屋田源四郎著:統合失調症患者の行動特性.金剛出版						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション 疾患、障害特性と作業療法の実際(統合失調症)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	2	疾患、障害特性と作業療法の実際(統合失調症)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	3	疾患、障害特性と作業療法の実際(気分障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	4	疾患、障害特性と作業療法の実際(気分障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	5	疾患、障害特性と作業療法の実際(神経症性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	6	疾患、障害特性と作業療法の実際(神経症性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	7	疾患、障害特性と作業療法の実際(パーソナリティ障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	8	疾患、障害特性と作業療法の実際(パーソナリティ障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	9	疾患、障害特性と作業療法の実際(摂食障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	10	疾患、障害特性と作業療法の実際(摂食障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	11	疾患、障害特性と作業療法の実際(物質依存性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	12	疾患、障害特性と作業療法の実際(物質依存性障害)				授業内容の復習を行い、小テストのための準備を行う。	
	13	評価演習				演習準備を行う。	
	14	評価演習				演習準備を行う。	
15	評価演習				提出課題を作成する。		
評価方法	(1)授業の中で小テスト・演習とレポート課題を実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
	演習・レポート	◎	◎		◎		
履修上の注意							

科目名	日常生活活動Ⅱ						
科目名(英)	Activities of Daily Living ; Practice Ⅱ						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	上田 豪気		
実施年度	2023 年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として施設勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	対象者の能力を最大限に引き出し、日常生活活動および生活関連動作の向上をはかり生活の質(QOL)を高めることは作業療法士の重要な役割である。この授業では、基本的動作能力や移動・移乗動作、およびセルフケアに対する理解をし、学生に対して実技ができるようにする。加えて福祉用具や住環境整備等の知識を身に付け、多面的に対象者を支援するということを理解する。そのために実際の福祉用具や住宅改修モデルの見学も実施する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	○	○			福祉用具の概念を学び、その給付体系を理解し説明することができる		
	○	○			福祉用具に関する作業療法士の役割を理解し説明することができる		
	○	○		○	福祉用具の適応とADLを関連付けて理解し説明することができる		
	○	○	○		ADLの介入技能を理解し学んだ知識をOSCEで体現できる		
	○	○			ケーススタディを通して臨床推論ができるようになる		
テキスト・教材 参考図書	1)木之瀬 隆 編集・作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 第2版. 協同医書出版社,2016. 2)藤井 浩美:日常性活動の作業療法.中央法規 3)才藤栄一:臨床技能とOSCE(機能障害・能力低下への介入編). 金原出版株式会社 参考文献: 1)テクノエイド協会:住宅改修ハンドブック 自立支援のための住宅改修事例集.テクノエイド協会,2008. 2)テクノエイド協会:福祉用具を上手に利用するためのQ&A. テクノエイド協会,2008. 3)中村 恵子:もっとらくらく動作介助マニュアル. 医学書院. 4)藤井 浩美:日常生活活動の作業療法. 中央法規						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉用具概論 福祉用具供給システム 治療に関する機器(各種作業台、筋力増強・筋持久力改善に用いる機器)			制度に関する知識の整理と配布資料の整理と復習		
	2	ベッド周辺機器 移乗補助用具			配布資料の整理と復習		
	3	生活に関する機器(排泄関連用具/入浴関連用具) 自助具(自助具導入の流れ)			配布資料の整理と復習		
	4	自助具(レポート)			自助具について疾患別レポート提出/配布資料の整理と復習		
	5	環境制御装置・意思伝達装置・スイッチの工夫			配布資料の整理と復習		
	6	住宅改修(住宅の役割と住宅改修の必要性/ 基本的な改修項目と実例)			配布資料の整理と復習/見学に向けて授業内容の振り返り		
	7	福祉機器展示場見学(レポート)			福祉機器展示場見学レポート提出		
	8	ポジショニングに対する介入技能			教科書3)の今回の範囲の予習と復習		
	9	起き上がりに対する介入技能			教科書3)の今回の範囲の予習と復習		
	10	起立・着座に対する介入技能			教科書3)の今回の範囲の予習と復習		
	11	移乗に対する介入技能			教科書3)の今回の範囲の予習と復習		
	12	歩行に対する介入技能			教科書3)の今回の範囲の予習と復習		
	13	ケーススタディ(脳血管障害)			配布資料の復習		
	14	ケーススタディ(整形外科疾患)			配布資料の復習		
	15	まとめ			配布資料の復習		
評価方法	(1)レポートを実施する 20%(施設見学レポート)。 (2)定期試験(筆記)を実施する 80%。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	宿題・レポート	◎	◎	○	○		20%
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	作業療法総合演習						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	安部 剛敏		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年生						
授業概要	臨床現場で求められる基本的態度や各領域および疾患に必要な臨床技能、臨床思考過程について各領域の作業療法士から教授いただく。また、作業療法を経験した当事者から、作業療法士に求められる倫理観や基本的態度についても講義していただく。臨床実習に必要な基本的な臨床技能については、OSCEを用いて演習を実施する。						
授業形態	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				臨床に必要な基本的態度・臨床技能・思考過程について理解できる	
	○	○		○		当事者の講義を通して作業療法士として必要な倫理観や基本的態度を習得できる。	
	○	○	○	○		OSCEを通して、基本的な臨床技能を習得できる。	
テキスト・教材 参考図書	1)オリジナル資料 2)PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	コースガイダンス・臨床実習概論・臨床実習に必要な基本的態度			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする		
	2	臨床実習に必要な臨床技能・臨床思考過程			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする		
	3	精神科作業療法に求められる倫理観と基本的態度			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする		
	4	精神科作業療法に求められる臨床技能と思考過程			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う		
	5	当事者が語る作業療法(学び合い①)			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う		
	6	当事者が語る作業療法(学び合い②)			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う		
	7	当事者が語る作業療法(学び合い③)			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う		
	8	当事者による講義			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う		
	9	急性期・亜急性期作業療法に求められる倫理観と基本的態度			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする		
	10	急性期・亜急性期作業療法に求められる臨床技能と思考過程			講義内容や自分で調べたことをポートフォリオする レポート提出を行う		
	11	臨床技能とOSCE①(コミュニケーション技能)			PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。		
	12	臨床技能とOSCE②(療法士面接)			PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。		
	13	臨床技能とOSCE③(関節可動域測定)			PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。		
	14	臨床技能とOSCE④(筋力測定)			PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。		
	15	評価実習ガイダンス			PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)の該当箇所を繰り返し学習する。		
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)ポートフォリオを提出する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	提出物	◎	◎		◎		50%
	小テスト						
	宿題・レポート	◎	◎	◎	◎		50%
	発表・作品						
履修上の注意	授業内容の順序は入れ替わることがあります。						

科目名	地域作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	早川由加里(身障・老人) 小野仁(発達障害) 藤元啓行(精神障害)		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	早川由加里(老健施設で作業療法士として勤務) 小野仁(病院・福祉施設で作業療法士として勤務) 藤元啓行(病院に作業療法士として勤務)		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、身体障害領域および介護保険領域、発達領域、精神領域における地域作業療法の知識基盤および実践的方法論を理解する。また、日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントの基礎的な知識と実際の評価、マネジメントの方法について理解する。各領域での実践例についても直接触れ、その実践を理解する。						
授業形態	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				地域作業療法の理念と役割を説明することができる。	
	○	○				各領域の地域生活における生活障害の特徴を例を挙げて説明することができる。	
	○	○				学生を相手に生活行為向上マネジメントを模擬的に実施し、介入プランを立案することができる。	
	○	○				模擬症例を通して、地域生活におけるケアプランおよび作業療法プランを立案することができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)一般社団法人 日本作業療法士協会:作業療法マニュアル66 生活行為向上マネジメント 改定第3版。 2)寺山 久美子編:作業療法学全書別巻 地域作業療法学 協同医書出版社 3)香山明美他編:精神障害作業療法―急性期から地域実践まで 医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	身障・老人	オリエンテーション、地域リハビリテーション・地域作業療法概論 社会資源について(介護保険制度、その他保健福祉サービス)			地域における作業療法について事前にどんなものがあるのか考えておく(30分)	
	2		ケアマネジメントについて、地域作業療法の実践 生活行為向上マネジメント①			生活行為向上マネジメントとは何か事前に調べておく(1時間)	
	3		生活行為向上マネジメント②			事前配布した事例検討書類に目を通しておく(1時間)	
	4		生活行為向上マネジメント③			実施している事例検討の進行具合に合わせ、完成させることが出来る様各自作業を進めておく(1時間程度)	
	5		作業療法士の活動内容(外部講師)			外部講師の職場について事前にインターネット等用い事前情報を集めておく(1時間程度)	
	6	発達	地域作業療法の知識基盤(理念と役割、社会資源)の振り返りと家族の思い			講義資料を通して復習しておくこと	
	7		発達障害児(者)の困り感(ライフステージに沿って)			講義資料を通して復習しておくこと	
	8		発達障害児(者)のケアマネジメントと自立支援(意思決定支援)について			講義資料を通して復習しておくこと	
	9		障害児の福祉サービス、家族支援、ケアマネジメント、医療的ケア児の生活支援			講義資料を通して復習しておくこと	
	10		地域作業療法の実践(保育所等訪問支援の視点から)(外部講師)			講義資料を通して復習しておくこと	
	11	精神	地域支援の概要 事例演習(生活行為アセスメント)			講義資料を通して復習しておくこと	
	12		事例演習(生活行為アセスメント) 地域生活支援のあり方と実際(再発予防・ケアマネジメント)			講義資料を通して復習しておくこと	
	13		地域生活支援のあり方と実際(外来作業療法・デイケアでの支援)			講義資料を通して復習しておくこと	
	14		地域生活支援のあり方と実際(就労支援・福祉サービス・事例紹介)			講義資料を通して復習しておくこと	
15	事例演習(生活行為向上プラン) 地域作業療法の実践(外部講師)			講義資料を通して復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 定期試験は、各領域30点で合計90点満点で実施し、素点を100点満点換算し処理する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
	発表・作品						
履修上の注意							

科目名	評価実習						
科目名(英)	Clinical Practice						
単位数	3単位	時間数	145時間	担当者	作業療法学科教員 臨床実習指導者		
実施年度	2023年度	実施時期	後期	担当者実務経験	作業療法士として病院勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 夜間部 3年						
授業概要	臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士として求められる倫理観や基本的態度を身につける。学内で学習した作業療法評価の技能(検査・測定/面接/観察/情報収集)を臨床場面で経験する。評価結果から統合と解釈を行い、作業療法目標の設定までの臨床思考過程を習得する。						
授業形態	講義: △	演習:	実習: ○	実技: △	※ 主たる形態:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○			○		臨床実習指導者の指導のもと、作業療法士に求められる倫理観や基本的態度を習得できる。	
		○	○	○		臨床実習指導者の指導のもと、作業療法評価計画から作業療法目標の設定までの思考過程を説明できる。	
		○	○	○		一事例の作業療法過程を症例経験報告書(またはMTDLP報告書)に整理し報告することができる。	
		○		○		評価実習で学んだことを他者と共有し、他者の経験から多様な視点、考え方を学ぶことができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)評価実習ガイドンス 2)PT・OTのための臨床技能とOSCE(コミュニケーションと介助・検査測定編)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1						
	2						
	3	●評価実習事前セミナー:1月29日(月)~2月3日(土)					
	4	・実習における感染対策やリスク管理に関する講義を実施する。					
	4	・デイリーノート/ケースノート/報告書等の書き方に関する講義を実施する。					
	4	・臨床技能の試験(OSCE)を実施する。					
	5						
	6	●評価実習:2月5日(月)~2月24日(土)					
	6	※施設の就業規定に応じて3週間実施(5日/週を基本とする)					
	7						
	8	●評価実習事後セミナー:2月26日(月)~3月2日(土)					
	8	・各施設で学んだことを共有するグループワークと症例報告会を実施する。					
	8	・提出課題について、担当教員よりフィードバックを受ける。					
	9	・臨床技能の試験(OSCE)を実施する。					
10							
11							
12							
13							
14							
15							
評価方法	実習成績報告書に基づく臨床実習指導者による採点と学校への提出物、実習後セミナーでの症例報告などを総合的に判断して100点満点で判定する。 成績評価基準はA(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	実習課題の遂行		◎	◎	◎		60%
	提出課題		◎		◎		30%
	OSCE		◎	◎			10%
履修上の注意							